◇ 小 池 昌 人 ◇

○議長（村松　　積）　次に、１番、小池昌人君、質問を許します。登壇願います。

小池昌人君。

○１番（小池　昌人）　１番、小池昌人です。

まず、平成２２年度当初予算編成における主な事業と予算概要、また政権交代により村制にどのような影響が予想されるかについて質問させていただきます。

先ほど村長あいさつの中でも、触れていただいてあることが多々ございます。重複することがあるかと思いますが、改めて質問させていただきます。

村制１２０周年を迎えた平成２１年も年末となり、平成２１年度事業も着々と実施され、次世代型情報通信基盤の光ファイバーの全戸敷設、音声告知ケーブルテレビ、高速インターネット、デジタル防災無線といった一連の工事が完了し、供用開始されてきました。

雇用対策として、独身向け集合住宅第１１メゾンコスモスの完成と企業誘致による工場造成工事が完成し、工場の建設も始まっています。また、温暖化対策としての村の主な公共施設に太陽光発電工事に着手され、一般住宅への補助事業も始まりました。健全な財政を維持し、子育て支援をはじめとし、ますますマスコミ等で取り上げられ、村への視察も全国の１／３近くに当たる２９０団体に達し、下條村のあり方を範として注目を浴びています。

そんな中、鳩山由紀夫を首班とする民主党が、８月３０日の第４５回衆議院総選挙にて圧勝し、新流行語大賞にも選ばれた「政権交代」により、民主党内閣が発足しました。

予算の無駄遣いをなくすために完全公開で行われた事業仕分けの行政刷新会議と事業仕分けチームによる４４９事業が検討され、廃止、予算計上見送り、予算縮減を合わせた予算の削減額は約７，５００億円となり、これに公益法人の基金の国庫返納などで捻出される財源を加えると総額１兆９，５００億円に達したと報道されます。３兆円の圧縮目標の６割強にとどまるものの、今後仕分け対象外の事業にも同一の基準を適用し、削減額の上積みを図るとしています。

一般公開で行われたことで関心を呼び、「政治ショー」とか「パフォーマンスにすぎない」といった批判があるものの、民主党の河野正氏の「正直言ってうらやましい」と言っていた言葉が印象的でした。

当村においても、平成２２年度予算編成作業に取り組まれている時期と思います。そこで平成２２年度の主な事業計画の概算見通しと、今まで継続的になされてきた事業の実行に当たり政権交代、あるいは事業仕分けによる影響はどのようなことが予想されるか村長のお考えをお尋ねします。

続いて、消防協力企業の優遇措置について質問させていただきます。

朝晩の寒さも増してきて、火の取り扱う機会が多くなり、空気も乾燥し、統計的に火災の発生しやすい季節になりました。

平成１９年第４回定例議会の一般質問において、住宅用火災警報器の設置に対しての補助についての提案をさせていただき、平成２０年度当初より村内全家庭へ消防団により無料設置されました。これを契機に増設された家庭も多いのではないかと思います。毎年、数回発生した住宅火災も、この間ずっと少なくなり、その成果の表れと感謝します。

また、今年度は、独居住宅宅へ外部通報拡声器型の火災警報器の設置が計画され、安心感が一層増すものと思われます。

通年の防火、防災活動や日々の訓練、火災予防運動等の活動が消防団を中心に積極的になされていることに対しまして、感謝と敬意を払いたいと思います。

一方、２４０人体制、１分団平均４０人体制であった団員数も徐々に減少し、１０年前から２００人体制になり、団員の確保難などから平成１５年からは毎年１０名ずつの条例定数の削減を行い、平成１９年度からは１５０人体制で今日に至っており、分団数も平成１８年から６分団から５分団編成に減少になっております。

常設消防の充実や消防設備や道路状況、周辺状況が良くなっているとはいえ、消防団、団員にとっての活動内容は変わっておらず、反面戸数の増加、人口増、生活様式の多様化等により団員の負担は多くなっていると思われます。また、勤め先企業や個人事業主においても、厳しい経済状況の中、有事の際には仕事を差し置いての出動や予防活動、訓練における団員の活動の支援を、勤め先企業や個人事業主に対し、消防活動優遇願いを発行して協力していただくよう依頼しております。

県では、平成１９年度より消防団活動協力事業所への優遇措置の応援減税として、事業税などの全額の１／２減税を支援しています。昨年の予算会議の際、「当村においても優遇支援に対する考え方はないか」という質問をさせていただいた時、「村でも独自に検討

したい」というお話がありましたが、どのように取り組んでいただけるか村長のお考えをお尋ねいたします。

以上です。

○議長（村松　　積）　伊藤村長、答弁願います。

伊藤村長。

○村長（伊藤　喜平）　小池議員の質問にお答えいたします。

平成２２年度の主な事業と予算概要についてでございますけれども、その前に行政刷新会議ございました。の話がありました。

私はあれ政治ショーではないと思います。私いろいろそのかの人にも聞いてみたんですけれども、懸案の問題が、財務省からこんなに案件ごとに資料がもういくらでもあるわけでございまして、それをほとんど徹夜でやり抜いちゃうんだということでございまして、あの努力、そしてまた非常に新鮮でございますし、あの中で今でも暴かれておるんですけれども、本当にトンネルの会社を作って天下りやって、これが丸投げして、そこでおるのが１，７００万円も１，６００万円も高額むさぼっておるということでございまして、ひでえことをやっておったんだなということと、ひでえことを見過ごしておったんだなと、こういう感じでございます。

刷新会議でばんばんやるわけでございます。これからも大いにやっていただきたいということと、決してあれは政治的なショーでなくて、きちっとつかんでおってボンとやると答弁をする高級官僚がおだおだおだおだしておる。何があれ高級官僚だ。結局現場を知らない。それから外の荒波、波風に当たったことのない連中でございますので、誰か答えてくれるんじゃないかななんてあのうろたえておる様というのはちょっと悲しいのかなということと、国民の実際の生活と完全に乖離されておる。彼らは絶対身分は保障されておる、そして上には調子のいいことを言って段々おりゃ段階的に上がっていくということになると、これまた民主党の皆さんも、私最後にその方の帰る時に俺はそんなにえらい人じゃないと思ったもんで言ったんですが、「あなた方はマニフェストはいくつも出しておると。これはいいと。だけれども、私ども賢明な国民はあれを全部やるなんていうことは思っておらんから、私が１つやっていただきたいことは、行政刷新会議の中で総人件費の２０％やるんだということ。まず自ら隗を示していただきたい」と、「それが本物か本物で

ないか」と、これ総人件費でございますので、国会議員も含めて高級官僚も含めてでございます。私は、そのことを最後に言ってやりましたら「やります」と言って帰ったんですけれども、そろそろ手をつけるそうでございます。

まず改革しようと思ったら為政者、それから官僚が本当にその気にならなければならないわけでございまして、私どもは平成４年から行政刷新会議をやっております。１０何年前でございますけれども。今ちょっと遅いなと思っておるんですけれども、いいことは大いにやらなければいけないというふうに考えておるということと同時に、それが一番難しいということでございますので、そのことをしっかり言ってやりました。

予算編成の基本方針でございますけれども、下條村がさらに住みよい安全な村と若者定住により、魅力あふれる村づくりを進め、限られた財源の中で必要なものから根本的に積み上げていくと基本でございまして、前例踏襲だ、前年度がどうだと、これは全部１回は洗い直してまた組んでおります。

平成２２年度の予算規模はおおむね１９億円、これは言ったとおりでございます。総務関係では、ケーブルテレビの管理業務を含め、さらに内容を充実したシステムを構築いたします。

防災対策としては、飲料水兼用の耐震性貯水槽、これ初めてでございますけれども、相当大きなものを拠点にまず設置したいなということと、防災備蓄倉庫、これは今日赤の防災備蓄倉庫が親田のグラウンドのところにありますけれども、あまり用をなしていないというか、家賃はくれるし、中にある程度入っておりますけれども、ああしたものでない何かを作りたいなと思っております。

それと南部公共交通としまして、今年の９月から通学運営を始めました。あれを見ておっても、いかに井戸端会議というのは危険であるかということでございますけれども、「あれを作ればわしゃ方のこうだ」といって、アンケートを採ったら相当乗るようになっておりました。川路まで２００円、阿南高校まで２００円でございますけれども、さあ始まったら「おえこれしか乗らんのかよ」という現状でございます。

だいぶ増えてきたんですけれども、増えるといったって元がこのくらい乗るといっておいてこのくらいしか乗らなんで、だいぶ増えたとだいぶ増えたんでございますけれども、そういう状況でございます。

しかし、あれをなくしたということになれば、ますますこの地域は疲弊するわけで、最低の公共投資としてやっていくということでございます。

本来ならば、下條村あんなの入らん方が良かったんですし、ちょんとマイクロの２台も買っておいて、ぽーんぽーんとやっておきゃいいんですけれども、売木から始まってくるやつ待って、停止場所も２～３カ所ということでございますけれども、「本当に下條犠牲になっておるんだよ」って時々言うんですれども、「申し訳ない」というだけであまり大した感謝しておらんようでございますけれども、そういうことでやってまいります。ぜひ皆さんも、高校生がいたら大いに乗っていただきたいと思います。

福祉関係では、中学生までの医療費の無料化の継続。ここで「無料」という言葉が出ました。無料はおかしいじゃないかと言うんですけれども、これは長期的構想の中で長寿化社会になりました。高齢者社会じゃない、長寿化社会。これは非常にいいことなんですけれども、これから福祉、医療、毎年１兆円ずつ国の予算が増えております。福祉、医療関係。１兆円で今３４兆円になっておるということでございまして、こういう問題。

それでこれならいいんですけれども、それを払うお子さんが１．３ばかりではまるでおかしいわけでございまして、今１．３なら２０年後の日本の社会も２０歳になってもそのそうは１．３というか、その係数が全体の係数の中ですけれども、今の現状の人員しか２０年後には２０歳になるとそういう移動していくだけでございまして、これ何とかなるわいなんて行政というごまかしの言葉。私はいつも言っておるんですが、行政は財政の後についてこいと。財政をきっちりやって、そして数字をきっちりやれば行政は仕方ないで動いてくれるわけでございますけれども、行政の今までのあり方というのは能書きばっかこいてなに目標をおぼろに設定して、何とかやれば来年もボーナスがくるわい、また５年やればいくらか上がるわいと、こういう無為無策であとせりふだけでやっておったのが今のツケがきたわけでございますので、私は財政、数字をきっちりして、数字からつかんでいけということで今やって、職員諸君も非常に頑張っておっていただきます。

そうすると、平気で言われておることでございますけれども、今は騎馬型介護だということで、３人が騎馬を組んでそして１人の人を支えておるわけでございますけれども、２０５０年になると肩車型ということでございまして、１人の人が落ち仕寄りを１人抱えていかなければならない。その現実をどう見るかということでございます。

今金あるから配れとか、何とかというんでなくて、もう少しきっちりして体制にしていかなければいけない。そのためには子育ても一生懸命やらなければいけない。とても２万６千円も払えないわけでございますけれども、その２万６千円も最初１万３千円半額、これもいいと思います。そうしたら今度は自治体にもいくらか負担してもらわにゃ無理じゃないか。私はこれも一理あると思います。今までやっておったものに対して、その分くらいはそれは格差があるわけでございますが、今までやっておった最低の分くらいはこの国家の滅亡の危機にある時は私は支援してやってもいいなと。何でも金もらえばそれはもうけのような気がする。そういう近視眼的な考えでなくて、このときはそいじゃ一生懸命やって、そいじゃ１万３千円をもう５年ばかやってみろとか、そのぐらいの度量をつけなければいけない。だけれど、ない袖は振れないということでございますけれども、たまたま下條村は振れておるということと、これだけでかいことを言えるということは皆さん方が頑張ってくれたおかげでございますので、そんなことも感じるわけでございます。

子育て応援基金の拡充もいたします。

保育料をさらに下げ、保育料をさらに下げ、２階層を１４.６％下げます。３階層を２.０％下げます。第４階層の３歳以上児童分を８.８％下げます。よくここのところは点検料も大事ですけれども、こういうこともやっておるということをご理解いただきたいと思います。

それから未就園児の子育ての集いの広場の拡充もいたします。

ここですけれど、高齢者の家庭介護慰労金、これはほかの町村はほとんどやめました。下條村は月に１万円ずつ払っておるわけでございまして、「これはちょっとおかしいんじゃないか、珍しいな」と言われておるんですけれども、私たちは家庭で介護するこの苦しさ。これに対して今は相当福祉は進んでおるんですけれども、いいじゃないかということで下條だけでございます。

それで新型インフルエンザの対策等の充実を図るということ。

振興課関係では、有害鳥獣による被害対策の支援ということでございまして、今モデルケースとして北又、入野、阿知原をやっております。北又・入野は２０・２１年度で終わります。阿知原は２１・２２年度ということでございますけれども、これもこれから希望地を大いに申請していただいて、「猪が出るじゃないか、鹿が出るじゃないか、猿が出る

じゃないか」といって、ぐざっておるだけでなしに前向きに「よしこういう施設があったらこういうふうに使っていただきたい」ということで、私どもも積極的に受け入れるつもりでございます。

それから農地情報共有化のための情報システムとしてＧＩＳと、航空写真の相当精密なものができます。そうするとそれによって、耕地の割り出しだとか、土地も非常に明確になるわけでございますけれども、特に農業災害のとき、これ農業災害基金も今度見直し委員会で１／３減らせということでございまして、今農済も大ピンチでございますけれども、そうしたときに相当簡易な管理ができるということで取り組みました。

それからリフレッシュパークの遊具、これも相当ある程度傷んでまいりましたので、これは早めに点検いたします。

それからさっきも申しました合併浄化槽の保守点検料の補助の増額と新たに汚泥引き抜き料の補助ということでございます。

教育委員会関係では、小学校のプールの改修。これは上に３０センチくらいどこかにもうるとこがあるということでございまして、いろいろやってみたんですけれども今度はちょっと大規模にやってみたいなということでございます。

中学生の海外研修事業の継続もいたします。

村単独の中学校の教員の設置も今年もやります。教育ローンの保証料の補助事業も今年も継続。

それから運動不足を解消のために各種大会の開催でございますけれども、特に運動会、これは本当に今年やって良かったなというんですけれども、教育委員会に聞いて「これやるかやらんかどうするんだ」と言ったら「みんなその委員の衆がきてもらって賛成だか反対だとかいってやる」と言うんですけれども、その任に当たる人はその非常に今特別訓練をしなければいけないような協議は何もないわけでございますけれども、なんせ煩わしいから「どうする」というと「反対」とこうくるわけでございます。皆さんもそうで「どうしますか」といったら「税金半分にしろ、点検料も半分にしろ」、「財源どうするんだ、そいじゃ財源２割増税するか」と言ったら「反対」と、これが無責任民主主義でございまして、これ説明する方も悪いんですけれども、あれやってみて本当に村民のあの団結、一堂に会して、そしてまたふるさと意識はときには出して一日へとへとになって応援したりす

るということ。

そしてさっきも言ったように、決して練習しなければ得点が上がらないというのはほとんどないわけでございますので、ぜひこれは教育委員会だったかな、決意のほどをあとで申し上げます。

何でも人の言うことを聞くのが民主主義のような気がしておるんな。こんなことでお前さんに言うんじゃないんだよ。

それから村民グラウンドのトイレの改修をいたします。

それとあの周辺を、特にテニスコートとレフト側の間をいいセンスにしてやっていくつもりでございます。

以上のとおりでございますけれども、皆さん新聞見ておってまず基本がまるでぐれるわけでございます。私は、１つぐれても素晴らしかったなというのは亀さんがきて、「１０兆円ばか出せ」なんてああいうばかいって、そしてやってやってやりまくって１，０００億円に抑えたわけでございます。これは民主党もいよいよ財政規律。民主党さんだって外野におるときはあんなようなことばか言って、「反対だ、それじゃんじゃんやれ」あの長妻さんなんていうのはやることなすこと反対で、そして公務員の垂れ込みある。それを資料にぼんぼこぼんぼこやるんですけれど、これが本人がその立場になっちゃってしまったわけでございまして、まるでどこか言語障害を起きたぐらい静かになってしまっておるわけでございますけれども、あれはあれで立場が違えばあれで結構だと思いますけれども、あの亀様の１，０００億円いいか悪いかは結果でなければ分からないんですけれども、あれ強引に切ってしまったというような菅直人さんを含め、あれは素晴らしいと思います。私はうれしかったです、あれは。

そういう不透明の時代でございますけれども、これから景気対策でどういうものが出てくるか分かりません。この中で平気で入れ替えもします。そしてまたとんでもないものが出たら予算に飛びつくんでなしに、絶対後年度負担がかからんなというものについては積極的に飛びついていくわけでございますので、ぜひそんなことでご理解いただきたいと思います。

それとシルバー人材事業というのも今度の見直しでやっております。今、南部地域６００万円だか６７５万円きておりますけれど、これを１／２にするというんですけれども、

これは私はちょっとおかしいなということと、シルバー人材センターのあのあり方もちょっとおかしいなと思うんです。国庫補助はくると。その代わりそのシルバー人材、今度阿南町に集めましたけれども、そこでは手数料一銭ももらえないと。そうして働いた人に対してそれ仕事がないか、集金だ、なんだといったら３～４人おるわけでございますけれども、その事務費は一銭ももらえないというこの感度はおかしいなと思っておりますけれども、そういう中でまた半分になり３００何万円になるということになると、また持ち出しが多くなるわけでございます。

私は働いた人からもらえというんでなしに、あれシルバー人材センター相当安いんですが、そこを２％でも３％でも上ませして相手からもらって、その差額はせめて賄いがたつようにしてやらないと大変かなと思っておりますけれども、こんな問題。

それから農業共済の問題も事務費１／３、それから支給額の補助も１／３だとか、ありとあらゆるもの。それから国保連合会の基金、長野県の国保連合会の基金もこんなものは本当に血のにじむような姿で天下りがやったと違って、積み上げたもの、いくらかそれらも職種を充てておるということでございまして、これらももうちょっと無理なとこがあるかなというふうに考えておりますけれども、これはこれからの政治判断でございますので、私たちも当然言うことは当然言うし、張るときは張らなければいけない。それから納得するとこは納得していかなければいけないと思っております。

消防の関係でございますけれども、今年２１年度から開始いたしますあの例の２名以上おるときの形の中で、法人または個人事業税の１／２の減額をその事業税はするんですけれども、上限が１０万円となっております。税額の１０万円でもいくらかでも役に立つのかなということと、村では消防団協力事業所を２１年からやるということ。

それから今は大変で、２００人を１５０人にしたという、これは消防団員の適用ということで、２００名がいるかいらないかというこの発想からいたしました。今各地に消火栓もあり、それからいくら定員増やしてもなかなか出動人員というのは曜日によりその時間帯によって違うけれども、だいたい過去にはコンスタントでなかったか。それで今度は減らしたで減るかというと、だいたい同じくらいのとこへいっておるなというデータも出ておるわけでございますけれども、その分だけまた精神的な負担がかかっておるわけでございますけれども、私はそれは大変なことだろうと思いますけれども、あの年代に全体のた

めに精神に負担をかけるということは、これは非常に彼らの長い人生でプラスになろうかと思います。

そうした意味で、消防団の詰所も全部やり直しました。あそこをコミュニティーの場として本当に横のつながり。そして酒飲んで「おいこらお前どこいっておるんだ、会社どうだ」というような話をしたり、いろいろする場。その中にまた村づくりの話も出てくると思いますけれども、そういういい意味での効果があるということで、これは長期的に考えて、今度は次の年度には何をするかということも前向きに考えたいなと思っておるところでございます。

以上で答弁を終わります。

○議長（村松　　積）　１番、小池昌人君、再質問ありましたらお願いします。

１番、小池昌人君。

○１番（小池　昌人）　私も寺田先生の「日々つれづれ日記」というの読まさせていただきましたけれども、大変下條村について感激をして帰ったようなことでございます。

その中で、非常にちょっと気になったというかあれですけれども、そのとおりだとは思うんですけれども、「将来に大きな負担を残すものであったり、補助金を使うことで自由な裁量を失うのであれば、補助金に頼らず自分たちで事業実行する」というところは、「いかに国の補助金がお節介なもので、かつ地方に自由な発想、工夫を凝らすモチベーションを失わせているか理解できた」というようなことが書いてあるわけですけれども、さきほど下條村の財政の関係も非常に良くはなってはおりますけれども、自主財源的な自立できるかというところについては、非常に国の補助金等に頼ることが大きいわけでございますけれども、その中で「縛られる」ということはもちろんあります。

ただ、そういった形の中で、今後７兆２，０００億円の追加経済対策等も閣議決定されてきておりますので、経済効果があるような予算あるいは補助金がきた場合に、飛びつくんじゃなくてということでしたけれども、何かそのようなものがきたらやったらいいんじゃないかという事業の計画的なものは持ってはいらっしゃらないのでしょうか。

○議長（村松　　積）　伊藤村長。

○村長（伊藤　喜平）　寺田さんのブログでございますけれども、あれは私もちょっとあの人は「住宅施策においてどうしてこんなに造るんだ」と。「大丈夫ですか」と言うんで「こう

でこうで」「補助金はどのくらいくるんですか」というもんで、「補助金一銭ももらっておりませんよ」と「なぜもらわんのだ」と言うもんで、「こうこうこうこうこういうわけで、全然選択肢がない」ということで、「ちっとばか３割ばかの補助金もらったって入る人がとんでもない人が入られたりしたら、集落それから村も全然駄目になってしまいますよ」ということを言って「なるほどな」ということで、活字の限界というか、もう少しこの荒っぽく私も何か結論言おうと思って早く言うと荒っぽくなるわけでございますけれども、これあの人は基本的には徹底して三菱商事に切れもんでおったというくらいでございますので、基本的には分かりますけれども、活字がちょっと足りなかったということでございます。

県でもちょっと嫌みを言われたことがあるんですけれども、県に嫌みを言われる筋合いはない。いうんなら寺田さんに言ってもらえればいいんだけれども、ちょっともそれを中央にいえなしにおいて、それできたら「こういうことを言わないようにこれをこうしてくれよ、これだけ言ってくれよ」とか、そんなことを言ったって俺の性格として「そんなにびくびくして県政をやっておるんならそんなものはやめちまえ」と言いったんな。胸張って「おら一生懸命やってこれしかできんでどうしてくれる」というんならいいけれども、「これはちょっと絶対伏せておいてこれはこうだ」なんて仕分けして、ばかじゃあるまい。

そういうことでございますので、あれはちょっと文字の足りなんだ、乱暴な言い方だったんですけれども、文脈の全体を見るとあれ正しいそのものでございます。

そこで、今度は何をするか、きたら。まず最初にこの中で挙げたものの中で切り替えができるものをまずやります。そして今何をするか。ここが下條村の１つのまた問題。何が必要かと。今きたら何をやる。太陽光もやった、こうでこうだ。いくらもう下げる、ただにせよなんていう話はできんと。そういった場合にこれ持続的にできるもんでないといけないわけでございまして、今金あるから来年はやりませんなんてそんなこともできないということでございますので、まず切り替えはやると。切り替えできるものはやり、そしてまた後で皆さんと一緒に考えるということでございます。

ぜひ今から何をやれということを書いておいていただければ、ありがたいなと思っております。

○議長（村松　　積）　１番、小池昌人君、再質問ありません。